

## 第45回創価大学・第31回創価女子短期大学入学式「祝辞」 「汝自身を知れ」

トゥルスナリ・カリーモヴィチ・クジーエフ

アッサラームアレイクム！

私の師匠であり、兄とも慕う親愛なる池田博士！

創価大学の馬場学長、新入生、教職員の皆さま、ご列席の皆さま、こんにちは！

ご努力が実り、晴れてこの世界的な大学の一員となることができた皆さまは、本日、人生の忘れがたい一日を迎えました。心よりお祝い申し上げます。

教育・学術の素晴らしき殿堂である池田記念講堂の前庭には、アリシェール・ナワイの銅像がそびえ建っています。ナワイの故郷である、遠く離れたウズベキスタンでも、創価大学のことは大変よく知られております。ここ創価大学では、満開の桜と鳥のさえずりが皆さんを囲み、頭上には雲一つない平和な青空が広がっています。そしてこの理想的な環境には、皆さんが幸福となり、成長するためのすべての条件が整っています。

私は池田博士と同じ時代に生まれ合わせた運命に感謝するとともに、博士と出会えたことを幸せに感じています。

池田博士が人類のためになされた、世界平和へのご貢献は枚挙にいとまがありません。博士は強い意志と<sup>う</sup>倦むことなきエネルギーによって、今日までに多くの偉業を成し遂げてこられました。

特に、冷戦中のご活動はまさに偉業と呼べるものであります。国と国の関係が良好と呼べない時期もある中、若き平和の闘士である池田博士は、新たな戦争へと繋がりがねない緊張を取り除くために、大国の指導者との会見を続けたのであります。

昨年は、池田博士のソ連初訪問より40周年の佳節でありました。ソ連と日本が冷戦状態にある中で実現した、博士とソ連首相との会見の意義は評価してもしきれません。国を挙げても成しえなかったことを、一人の人間が成し遂げた事実にただ驚くほかありません。

1990 年代初頭にソ連が崩壊すると、独立国家が誕生しました。ウズベキスタンは 1991 年 9 月 1 日に独立を宣言し、日本はウズベキスタン共和国の独立を認めて外交関係が樹立され、大使館も開かれました。この政治的にも歴史的にも重要な時期にあつて、創価大学はハムザ記念芸術研究所と学術交流協定を結び、シルクロードの遺跡発掘調査を開始しました。このように、池田博士が我が国の独立当初から、ウズベキスタンとの交流に尽力されたことは、二国間関係をより大きな歴史的規模でとらえる、地球的思考の人物であることを証明しています。

我が祖国の独立から約四半世紀の時が過ぎました。これは私が、師匠であり兄とも慕う池田博士と知り合ってから期間と重なります。その間、私は様々な国家的ポストで仕事をしながら、多くの切実な問題に直面し、回答を模索する時、私は、皆さんの大学の創立者である池田博士の哲学をしばしば繙<sup>ひもと</sup>いてきました。また、20 世紀の傑出した人物たちとの対談における会長の哲学的思想も大変勉強になりました。

池田博士は日本とウズベキスタンの友好促進にも多大なるご貢献をなされました。この四半世紀の間、創価大学とウズベキスタンの学術的な繋がりはいよいよ深まって参りました。共同考古学調査、学術会議などが行われ、多くの出版物も世に出されました。また、2002 年には、池田博士のご提案により、我が国のカリモフ大統領へ創価大学から名誉博士号が贈られました。これは日本の大学から大統領へ贈られた初の名誉称号であります。

ウズベキスタンの国民は、日本人と同じく友情を大切にします。

日本とウズベキスタンの学術交流の発展、文化交流の発展への計り知れない池田博士のご貢献は、我が国でも高く評価されており、テルメズ大学、国立美術大学（カマル・アッディーン・ピフザード記念国立大学）、国立芸術大学、科学アカデミー芸術学研究所から名誉学術称号が授与されています。

このように池田博士の学術交流の発展に対する多大なるご貢献に対して、356 にものほる世界の有数大学から名誉学術称号が贈られております。これほど多くの授与を受けている人物は、池田博士より他にはいらっしゃいません。

先ほども紹介しましたが、創価大学に設置されている中央アジアのゲートとも讃えられる我が国の民衆詩人アリシェール・ナワイの銅像についても一言申し上げたいと思います。

私がナワイの像を、ウズベキスタン政府から寄贈する提案をさせていただいた時、周囲の人々は、日本におけるナワイの知名度が低いことを挙げて反対をしてきました。

彼らは日本に池田博士という哲学者がおられること、そして我々の詩人ナワイを高く評価し

ている事実を知らなかったのです。私は、池田博士の聡明なご判断に期待するよりほかにありませんでした。

そして私が期待した通り、池田博士は像を寄贈するアイデアを受け入れて下さいました。それから約11年、東洋と西洋の知性の詩人であるナワイーとホイットマンが互に見つめ合いながら皆さんを見守っているのです。そしてこの像の傍らで、創価大学の学生はナワイーの詩をウズベク語と日本語で暗誦し、ウズベキスタンの学生は、池田博士の詩や哲学の勉強に励んでいます。

銅像の台座には、ナワイーの言葉が刻まれております。

「全ての人々よ 憎しみあうことなかれ 互いによき 友人たれ  
友情は人のなすべき道なり」

また、未来を創る青年にナワイーは、こう教えています。

「煙が帳となって道をさえぎっているのは、もう近くに、たき火がある証拠である。

そのように、暗闇の後には、必ずや輝ける光が訪れる。

君よ、それを信じるのだ。そして不動であれ」と。

池田博士が創立された教育システムを目の当たりにした時、私は心から感嘆いたしました。

若き創価大学の新生日本の皆さん！

池田博士は言葉だけでなく、その行動によって、ご自身の思想が世界中の子どもたちの幸福な未来の創造に繋がることを証明されました。そのような、現代の傑出した人物が創立した大学の学生となられた皆さんは幸せです。

私は皆さんに、ぜひ池田博士の哲学を学んでいただきたいと思います。その中にこそ、今日、人類が直面する多くの問題に対する回答が見つけられるはずです。

我が国の格言にこうあります。「今を心配する者は穀物の種を蒔き、十年先を考えるものは果樹を植え、百年先を考えるものは学校を建て、教育を与える」と。

人々が精神的な教養を身に付け、自然と人間の関係性を見直すまで、そして社会的・法的正義が実現されない限り、全ての人々にとっての平和、無事安穩、幸福は訪れません。

この場をお借りして、池田博士の変わらぬ友情、私の人生においてしばしば助けとなった聡明な哲学思想、そしてこの度、授与して頂いた創価大学名誉博士号に対して感謝申し上げます。今

後も両国の友好拡大、さらには創価大学とウズベキスタンの学术交流の発展、創価大学生とウズベキスタンの大学生との友情拡大に全力を注いでいくことをお約束いたします。

池田博士のご健康、ご長寿、そして教職員の皆さまが次世代の専門家育成においてご成功を収められますよう、また、若き友人の皆さまが学問を成就され、将来、母校の、そして母国の誇りの存在となられますよう、また創立者池田博士が喜ばれる存在となられますようお祈り申し上げます。

アリガトウ ゴザイマシタ